

鶴岡市ボランティアセンターだより

発行・お問合わせ
鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市ボランティアセンター
〒997-0033 鶴岡市泉町 5-30
Tel: 23-2970 Fax: 23-9110
E-mail: shk-vol2@shk01.jp



学生たちのボランティア活動①

ボランティア活動を行う人たちの中には、令和2年から続いている新型コロナウイルス感染予防の影響により、活動の機会を失っている個人や団体がたくさんあります。そんな中で、各高校、高校の部活、地域の学生ボランティアサークル等では、できる範囲で様々な取組を行っています。コロナ禍前からの活動も含め、今号より学生たちのボランティア活動を紹介していきます。今回は次の2校です。



鶴岡南高校山添校

～3月で閉校・・・長年の活動に感謝！～

昭和23年鶴岡第一高校山添校としてスタートし、昭和24年山添高校を開校、平成26年鶴岡南高校山添校と校名変更。この3月、開校から73年の歴史に幕を閉じました。

同校は、櫛引地域の高校として、多くの地域住民の希望と元気の拠点として、長い間存在し続けてきました。



▲櫛引の花「サルビア」の植栽！

地域の方々といっしょに環境美化の取組！

旧櫛引町時代からの町の花「サルビア」を、町中に植栽して管理から撤去までを行う地域活動に、山添校では全生徒が協力してきました。

他にも、海水浴シーズン前の7月に由良海岸でゴミ拾いを行う「ビーチクリーン」、10月に生徒会役員によるヤマザワ櫛引店前での「赤い羽根共同募金の街頭募金」等を行ってくれました。



▲由良海岸でのビーチクリーン！

担当の先生より

ボランティア活動は、誰かのためにというよりも、「自分のために行っている」という気持ちを育てたいと心がけてきました。

鶴岡東高校奉仕部

～運動部と合同で地域のための活動も！～

コロナ禍前には、子ども、高齢者、障がい者等と直接関わる様々な活動に取り組んできました。

中でも、鶴岡子どもまつり、鶴岡市障がい者スポーツ大会、鶴岡市敬老のつどい、国際ソロプチミスト鶴岡や



▲野球部の協力で学校周辺を除雪！

鶴岡ロータリークラブと一緒に屋内で行う活動等がほぼ中止されたことは、生徒たちにとって大切なボランティア活動の機会がなくなる状況となりました。

地域内の除雪や清掃活動！

奉仕部では、コロナ禍でもできる活動として、地元の町内周辺や公園の清掃、また大雪だった今冬は、多くの市民や学生が歩く歩道の除雪を野球部等といっしょに行いました。さらに、鶴岡ロータリークラブ等が主催した湯野浜海岸での海岸清掃に参加する等、コロナ禍でもできる活動をみつけて取り組んでくれました。

活動した生徒より

屋外での活動を運動部といっしょにできたことがうれしかった。地域のお役に立てる活動はこれからも続けたい。



▲公園清掃後、記念の1枚！

「青少年ボランティア活動紹介冊子」を更新！

鶴岡市教育委員会社会教育課、鶴岡市ボランティア連絡協議会と連携して行ってきた「高校生ボランティア交流会」は、コロナ禍の影響で昨年度に続き残念ながら開催できませんでした。

今年度は、昨年度作成した活動紹介冊子に、部活やサークルだけでなく高校等が学校として行っているボランティア活動も、各学校にご協力いただいて掲載しました。



「フクシマの子どもたちの未来を守る家」 10年のつどい

東日本大震災被災者の原発不安に向き合ってきた地道な活動♡

東日本大震災で被災した方々への支援活動を、10年間続けている「フクシマの子どもたちの未来を守る家」10年のつどいが、3月6日(日)双葉卓球クラブを会場に開催されました。当日は、活動してきたメンバーをはじめ、活動を利用した福島県の親子や鶴岡へ長期避難している方々、当時鶴岡の活動に協力し現在福島市で子ども食堂等の活動をしている方、復興ボランティア支援センターやまがた、鶴岡市、鶴岡市社協の関係職員等32名が出席。スライドや、出席者・福島からのテレビ電話参加者の言葉を通じて10年間を振り返りました。原発事故からの復興は、まだ先が見えない状況にあり、同会の高橋裕子代表は「今後も厳しい現実に向き合っていく福島の子に寄り添っていくために、拠点となる守る家は残していく」と話してくれました。



▲10年を振り返ったつどい！



▲放射能の不安を忘れて、外で思いっきり遊べた鶴岡の夏！

原発被災者に不安のない時間を！

「フクシマの子どもたちの未来を守る家」は、原発被害に不安を抱えて子育てをしている人たちの悲痛な叫びを聞いた時、「短期間でもいいので子どもたちを安全なところで思いっきり遊ばせたい」という想いから、鶴岡に空き家を借りて保養の場をつくり、他にも野外活動、傾聴活動等様々な活動をずっと続けてきました。
(最大時は5軒で活動)

出席したサポーターの言葉より！

当時、心の病で引きこもりだった自分に高橋代表が声をかけてくれたのが、「守る家」で活動するきっかけでした。最初に関わった、福島の子どもの言葉が忘れられない。鶴岡に到着して車から降りた子どもが「本当に外で深呼吸してもいいの？」その時、原発事故が子どもにそんなことを言わせてしまうことになっていることに怒りを感じました。

コロナ禍の地域貢献！ 株式会社ダイナム

～上郷小学校へ光触媒スプレーを寄贈～

パチンコホールを展開する株式会社ダイナム(本社東京都)では、全国で様々な地域貢献活動を行ってきました。今回は「コロナ禍でも安心して通える学校生活を支援」ということで、光の力で菌やウイルスを分解・無害化する「光触媒スプレー」を、上郷小学校へ寄贈していただきました(本市の1校に寄贈の計画でした)。

3月15日(火)、上郷小学校を訪れたダイナム鶴岡店の西沢店長と、山形と秋田の両県の地域貢献活動担当の高階さんから、佐藤校長にスプレー缶15本が贈呈されました。

3月18日(金)には、同校の先生方がコーティング作業を行ったとのこと。先生方からは「使いやすいし、ありがたい」との言葉が聞かれました。



▲佐藤校長(右)へ贈呈された！

除雪の支えあい…今後に向けて！



2年連続の大雪。除雪支援のしくみをつくる町内会や地域組織、また山間部の豪雪地帯で除雪ボランティア活動を行う企業や団体も増えています。ただ、まだ地域によっては除雪ができない高齢者等がいるという現実があります。

市役所の関係部署と話し合い！

2月7日(月)、市の防災、土木、コミュニティ、高齢者福祉等の担当職員と、現状を理解し今後のことを考える話し合いの場を設けてもらいました。

雪が降った時は、誰もが除雪作業に追われるので、すぐにボランティアがかけつけることは現実には困難です。鶴岡市社協では、まず隣近所や町内会等の身近な人たちの支え合いをお願いしています。

そのようなことも含め、今後に向けて市担当課や住民組織等との検討を行っていくことになりました。

ボランティア団体・NPO 等への助成事業！ お問合せはボラセンへ

「紅花ふれあい基金」(予告)

- 助成対象
社会福祉に関する事業を行う団体、個人等
 - 対象事業
地域福祉、在宅福祉、福祉ボランティア活動等
 - 申込期間
4/21(木)～5/20(金)
- 山形県総合社会福祉基金HP 参照

「老後を豊かにするボランティア活動資金助成金」

- 助成対象
高齢者を主な対象として活動、又は高齢者中心のボランティアグループが継続的に活動で使用する用具・機器類の取得資金
 - 助成金額
1グループにつき上限10万円
 - 申込期限
5/20(金)まで
- 公益財団法人みずほ教育福祉財団HP 参照

ボランティアのPRチラシ！

「庄内地域広げようボランティアの輪 連絡会議」が作成しました

庄内地域5市町ボランティア連絡協議会と社会福祉協議会(2市はボラセン)で組織している連絡会議。コロナ禍の影響により、今まで開催してきたボランティア交流や研修会ができず、今年度は「ボランティアPRチラシ」を作成しました。今後の相談やPRで活用していきます。



《らくがき》 厳しい冬が終わり、ようやく春が訪れた。しかし、世の中は、コロナ、戦争、ミサイル、災害、etc... 世界中の人たちが落ち着いて暮らせる日が来てほしい。この地球(ほし)で生きるすべての命は、尊いはずなのだ。(H)

